（調査様式１）

１．　自己評価及び外部評価結果

作成日　　平成23年12月19日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4672200120号
法　人　名	有限会社　敬徳
事 業 所 名	グループホーム かいもん
所　在　地	鹿児島県指宿市開聞十町１３３０－１ （電 話）０９９３－２７－２１１０
自己評価作成日	平成23年12月19日

※事業所の基本情報は，WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ＮＰＯさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・ご本人様の残存機能を活かした作業を、本人の役割として自信を持って行って頂　　くことを基本としており、家庭的な雰囲気を損なわないよう笑顔で過ごせる環境作りに努力している。
・「今日も笑って過ごしましょう」を合言葉に一日の生活が始まり、利用者様が孤立することが無いよう常にスタッフが声掛けをしており、自由に過ごされている。　・利用者様とご家族の関係を大切にしており、面会を通じて会える喜びを少しでも感じて頂けるよう両者の橋渡しをして安心して頂いている。
・少しでも利用者様、ご家族のお役に立てたらという思いで、スタッフ一同、試行錯誤を重ねながら支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点，工夫点（評価機関記入）】

南薩摩のシンボルである開聞岳のすそ野、旧開聞町の利便性に富んだ閑静な住宅地に「グループホームかいもん」がある。散歩コースや初詣で有名な開聞神社があり、ドライブコースは池田湖やあぐりランド、山川港や頴娃の茶畑など多彩にあり、海、山、畑と自然を満喫できる。
利用者の朝の日課は、職員による新聞の読み聞かせである。事件や事故、今話題になっていること、運勢など利用者がそれぞれ興味を示すことは異なっているが、会話は広がり、ときには戦時中の話まで飛び出すこともある。利用者同志も仲が良く会話もはずみ、まるで寄り合い処のようである。本を読むことが好きな利用者や、世話好きな利用者、相撲観戦が好きな利用者、観葉植物を育てることが生きがいになっている利用者など、それぞれが目的や役割を持ち日々を自分らしく過ごしている。
職員の自己研鑽意欲も高く、毎月個々の目標とホーム全体で強化したい重点項目を設け、それぞれが設けた目標に向け取り組んでいる。
利用者の表情も明るく活気があり、アットホームなグループホームである。

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	全スタッフで地域密着を重視した理念を作り上げた為、内容もよく理解されている。毎朝唱和しており、全職員で共有し、それぞれが実践につなげることができている。	地域密着型サービスとしての意義と、ケアをするにあたり大切なことを話し合い理念を作成している。理念は台所・洗濯場・職員用トイレ・ホール内など職員が目につくところに掲示し、毎朝唱和し理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集落会に入っており、地域行事等の情報もある為、地域行事には常に参加している。近くのスーパーにも買い物に出かけて、馴染みの人たちとの交流もある。	小学校の運動会や地域の夏祭り見学に出かけることで交流の機会を作っている。また、市の文化祭に今年度は作品を制作し、出品に向けて取り組んでいる。中学生の職場体験実習などの受け入れや地域のボランティアの方々の訪問もあり、大正琴やフラダンスを披露してくれる。近隣の方々とは日常的に挨拶などによる交流に努め、ホームの避難訓練の際には声かけをし、協力のお願いなどをしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	事業所の一員として、地域の中で人助けをできる時がある。 （声かけ、家までの送迎、迷っている方の家族への連絡・引き渡し等）		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表者や家族の意見を参考にし、サービス向上に反映しているが、最近は意見として上がってこない。	地域住民代表、家族、利用者、行政などの参加を得て2ヵ月に1回開催している。ホームの現状報告や事故・ヒヤリハット報告・行事予定などを報告している。地域や市からの情報など利用者の外出レクリエーションの参考になるなど、運営推進会議が活かされている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り，事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取り組んでいる	何かあった時は市の担当者に相談をする。何でも話し合える相談者がいらっしゃる為、協力関係にあると思っている。	日頃から連携を図り、ホームの困難事例など相談し協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来、身体拘束はしていないし、全スタッフが理解している。	職員がそれぞれ身体拘束についての意識を持ち、業務の中で気づいたことはお互いに注意し合うようにして、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。また、職員会議で外部研修の研修報告を行い、全職員が理解して取り組めるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内の虐待はあり得ない。職員会議などで勉強する機会を作っている為、スタッフは理解している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や職員会議の場での勉強会等を通じて学んでいる。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者より説明され、納得された上で契約されていると思っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けている為、何かあれば使用できるが、殆ど依頼や意見は直接スタッフに伝えられている為、すぐ反映できている。	面会時や電話連絡時、家族会時などに家族からの意見や要望を聞き出すようにしている。出された意見・要望については可能な限り改善できるように取り組んでいる。利用者からは日常の会話の中で意見、要望を引き出すようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やケア会議等で意見や提案を聞き、それ以外でも随時聞く機会を設けている。	毎朝夕の申し送りで職員は情報の共有を徹底している。また、毎月の職員会議とケア会議で意見・提案などについて話し合っている。資格取得の支援も行って、働く意欲を引き出すようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めているが思うように出来ない厳しさがある。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るかぎりの研修に参加できるよう機会を作っている。また、現場でのトレーニングもその場その場で話し合い、改善できるよう心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会に参加し、相互訪問の誘いかけもしているが、実際には難しいところがある。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状況をしっかり観察することで、不安や困っていることを早く把握し、慣れるまで寄り添いながら信頼を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とはなるべく連絡を密にとり、本人の状況を伝え、安心して頂けるように話し合う機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報や現状を見定め、どうして欲しいのかを家族や本人としっかり話し合って、必要な支援を見極めていくが、初期はとにかく安心して馴染んで頂けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同作業を行いながら、本人の必要性を伝えていて感謝している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフが出来ない精神面は、家族が支えて下さるようにお願いしている。本人にも家族が大切にしていることを伝えながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや自宅への一時帰宅などを本人の要望により、実施している。	入居前からの美容院を継続している利用者や、自宅庭のみかんちぎりや墓参り、自宅周辺のドライブなど可能な限りなじみの人や場との関係継続の支援を行っている。また、選挙の投票もホームから連れて行けるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に戻る事が少なく、殆どの方がホールで過ごされ、よく利用者同士で談笑されている。利用者同士が支え合っている場面もみられる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してからも、家族の方が相談に来られたり、自分の家で育てた野菜や花等を持ってきて下さったりしている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望・要望があれば本人から直接聞き、困難な場合は家族やスタッフ同士で話し合いをしている。	毎朝の新聞の読み聞かせによって、個々の思いや意向を引き出せることもある。また、日常的にも会話でコミュニケーションを図り、何でも言えるようななじみの関係作りに努めている。会話が困難な場合は表情や言動、家族や関係者からの情報などから本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初の段階でこれまでの暮らし・生活環境・サービス利用の把握をする為、十分に本人や家族と話し合いをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自の支援経過の記録があり、状況を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	３か月に一度モニタリングを行い、問題点があれば担当者会議を行い、介護計画を作成している。	本人や家族の意向や要望を基に、職員でアセスメントやモニタリングを定期的に行い、現状に即した介護計画を作成している。目的や役割を持ってハリのある生活を送ってもらうために、家事や読書、観葉植物の世話や家族との定期的な外泊など、本人の趣味や生きがいや目標などをサービスに取り入れ個別性のある介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何事も支援経過に記録している為、スタッフ間での情報は常に共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの必要性が異なる為、その都度本人の必要に応じて対応している。十分に柔軟な姿勢で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人がホームで安心して生活できるよう、必要な地域資源を活用しながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員かかりつけ医が決まっているが、夜間時に受診ができる所になるべくお願いし、納得していただいている。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関とは緊急時の対応や往診などで、連携が図られている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員でわからない場合は併設の有料老人ホームの看護師に相談し、適切に受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中はこまめに見舞いに行き、病院で情報を得ているが、退院については病院に任せている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については本人や家族と話し合い、説明している。食事ができるうちは事業所でお世話すると決めている。	入居時にホームの方針は口頭で説明している。入居後も、利用者の身体状況に応じて医師の指示を基に再度話し合いをし、ホームで出来る限りの最大限の支援に取り組んでいる。	今後は家族に分かりやすく説明できるように口頭のみならず、職員全員で話し合って文書化し、応急手当や初期対応についても法人の看護師などの協力をもらいながら実技を兼ねた研修を定期的に行い、職員が不安なく支援に取り組めるように期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練は一応受けているが、全員が実践できるかどうかは定かでない。救急車で搬送することにしている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に２回、消防署と連携し火災訓練をしている。それ以外にも定期的に避難訓練をしている。	昼夜間想定で避難訓練を行っており、訓練の際は近隣の住民にも声かけを行って協力のお願いをしている。隣接する法人の施設とは協力体制が話し合われており、スプリンクラーも設置済である。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声掛けや対応を全スタッフが心掛けている。	毎月の重点項目にとりあげることもあり、自分が言われていやなことば、言ってはいけないことばなどを職員にあげてもらい、職員は資質の向上に向けて取り組んでいる。また、職員会議でも話をすることもあり、人格を尊重した言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者全員が自己決定できる状況であるため、そのように働きかけている。本人に聴くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの過ごし方は大体決まっているが、本人の意思に反する時は本人の自由にして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	行きつけの美容室に行く人もおり、自己にて身だしなみやお洒落が出来ない場合には、スタッフと一緒に身だしなみを整えたりと支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと利用者は一緒に食事の準備や後片付けをし、一緒に楽しく食事をしている。	茶碗洗いや片づけ、調理下ごしらえなど、個々の力量に応じて職員と共に行っている。家庭菜園の収穫やソーメン流し、手作り弁当持参での花見なども楽しんでいる。気候のいい時は日光浴を兼ねて、庭でお茶をすることもある。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量はスタッフが摂取量を把握していて、不足しないように心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし口腔内の洗浄の支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録表にて排泄のパターンを把握し、自立に向けた支援をしている。	排せつチェック表を作成して個々の排せつパターンを把握し、トイレでの排せつの支援を行っている。特に排便には気をつけており、別に表を作成して健康管理を行っている。自立している利用者も多く、継続できるように支援している。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表にて便の状況を把握できるため、その都度水分を多く摂取したり、運動をしたりと取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週３回・午前中の入浴と決ってはいるが、本人の希望に応じて入浴したい時にはいつでも対応している。	希望があれば毎日の入浴も可能であり、個々に応じた入浴の支援を行っている。ときにはドライブがてら足湯に行くこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方は日中に３０分程太陽に当たるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の説明書に目を通しており、理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自役割があり、自分の仕事として取り組んでいる。気分転換のためにドライブに行ったり、コーヒーを楽しむ人や自室でテレビを見る人、身だしなみを整えるのが楽しみの人等おられる。好きな事が出来るように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物などでの外出を支援している。	散歩やドライブ、日光浴を兼ねて中庭でお茶を楽しむなど、ホーム内に閉じこもらない生活を支援している。地域行事の見学や季節の花見、またソーメン流しなどに出かけたり、ドライブで公園、山川港や池田湖、茶畑など回り自然を満喫できる環境にある。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を管理されているが、使用する事が危険なため、常に声掛けして間違わなように様に気を配っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも電話が出来るようにしており、手紙も本人の希望があったら、すぐに送れるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はとても開放的で明るく過ごしやすい空間になっており、ホールや廊下など季節感漂う飾り付けをしている。	居間兼食堂は明るく、開放的な空間で過ごしやすいよう配慮されている。サンデッキには開聞岳が眺められるようにイスが配置されている。和室もあり、生活感が感じられる共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自、自由に好きな場所に移動して過ごされている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや衣装ケース、椅子など本人が馴染みがあるものを持ち込んで、居心地良く過ごしている。	タンス、テレビ、ソファ、お気に入りの洋服、小物など使い慣れたものが持ち込まれている。本人の生きがいに観葉植物を居室で育てている利用者もいる。好きな相撲観戦を居室で楽しむ利用者など、居心地良く過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かるように工夫したり、安全に移動できるように手すりやバリアフリーになっている。		

Ⅴ　アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1 毎日ある
			2 数日に１回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 （参考項目：36,37）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に１回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない